

岩手郡医報

平成 8 年 3 月 No52
 編集 発行
 岩手郡医師会
 題字 齋石町高橋孝先生



アマリリス

アマリリスは、ヒガンバナ科の多年草で、原産は中・南米の熱帯にみられ、今日、生花店で見かけるものは主として紅色の縞の入ったベニスジサンジコを中心とした交配種で、白、ピンク、橙、濃赤色などの花の色もいろいろあり、咲き方も品種によって違いがみられる。

花壇、鉢植など観賞用植物として栽培されており、球根植物で、大形の鱗茎はスイセンに似ているがやや大きく、葉も幅広で殆ど白味を帯びることはない。花茎は葉の間から出て高さ 30 ~50 センチになり、頂にユリに似た六弁の花を数個、かさ状につける。

大日本百科事典（小学館刊）及び
 四季ごよみ（仲夏）（講談社刊）より

目次

アマリリス.....	1	平成 7 年度岩手郡地区学校保健会研究会.....	9
岩手郡医師会通常総会.....	2	第 8 回岩手郡地区学校保健・安全・給食大会.....	10
会長挨拶.....	2	葛巻医歯会だより.....	10
報告—総務、学校医、保険、福祉部会、 産業医部会、広報、健康・生涯教育、 医師連盟、労災保険、勤務医部会、 その他（かかりつけ医）	2 1 6	岩手県民健康講座——岩手町.....	11~14
平成 8 年度岩手郡医師会事業計画.....	7	零石医療団チャリティーショーへの出演.....	14
平成 8 年度一般会計予算書.....	7	弔辞 和田栄吉先生に捧ぐ.....	15
平成 8 年度休祭日当番医予算書.....	8	「おらほの先生」 滝沢村 遠藤医院の巻.....	16
任期満了による役員選挙について.....	8	隨想「心配ないじめ」 高橋 孝.....	17
		新入会員紹介 小野靖之先生、折租昭彦先生.....	18
		岩手郡医師会理事会.....	18
		編集後記.....	18

社団法人岩手郡医師会通常総会

日時：平成8年3月2日（土）午後4:00より
場所：盛岡市駅前通り ホテル・メトロポリタン盛岡

1. 開会の辞

2. 物故会員へ默祷

和田栄吉先生（2月16日）

3. 出席者の確認

会員78名、出席31名、委任状29名にてこの総会は過半数を占め成立。

4. 議事録 署名人

花籠良一、秋浜晃の両先生

5. 会長挨拶

会長挨拶（要旨）



高橋牧之介 会長

昨年は、天災人災いろいろな意味で大変な年でした。毎年新春には今年こそいい年でありますよう祈るんですが、なかなか思うようにならないのが現実です。努力なくして成果はないといわれますが、いい年となるよう努力することが肝要なんでしょう。

高齢社会の波は社会のあらゆる面に浸透しつつあり、その対応に医療・保健・福祉は今や大きな変革を余儀なくされようとしています。

厚生省の21世紀福祉ビジョンによると、社会保障の割合は年金5、医療4、福祉1であるのに対して、21世紀には年金5、医療3、福祉2にするといっているのです。福祉を増やすことは大いに賛成ですが、医療費を削って安易に福祉に回すなどとんでもないことです。

公的介護問題は、人は機能が衰えれば、老若男女を問わず介護が必要となるのですから、生涯を通じての介護としなければなりません。

推進に当たっては、給付や財源などの基本問題を十分に論議して、慎重に対応する必要があります。福祉の原点は医療であることを忘れてはならないと思います。福祉に偏重することによって医療のシェアを圧迫しないように注意しなければならない。

先の地域保健法制定により市町村の保健・医療面における役割が大きくなつたことと併

6. 議事

(1) 担当別理事よりの報告

- (1) 総務 (2) 学校医 (3) 保険 (4) 福祉
- (5) 産業医 (6) 広報 (7) 健康・生涯教育
- (8) 勤務医 (9) 医師連盟 (10) 労災保険
- (11) その他 (かかりつけ医について)

(2) 平成8年度岩手郡医師会事業計画（案）について

(3) 平成8年度岩手郡医師会一般会計予算書（案）について

(4) 平成8年度岩手郡医師会休祭日当番医予算（案）について

(5) 任期満了による役員改選について

7. 懇親会

せて地域医師会の果すべき責務も一段と重要性をましてきました。

「地域保健法について」

「地域の医療・保健・福祉は、医師会主導で」

「市町村保健センターの運営」

「老人保健福祉計画」

「救急医療体制」

平成8年4月より行われる

「診療報酬改定の内容について」

以上についても解説された。

(1) 報 告

【総務】



及川忠人 先生

担当理事 及川忠人

昨年1月17日に発生した阪神大震災を機転として、各地方自治体および様々な関連団体において大規模災害時の危機管理および災害対策について見直しをすることが報道される機会が増えつつある。

特に阪神大震災の教訓から、緊急時の3日間ぐらいうの情報の確保が災害復旧に極めて重要なことが判明し、交通機関やライフライン等の途絶とともにその対策が急務であることが指摘されている。岩手郡医師会では7年前に郡医師会災害事故救急医療対策要綱の8ヶ町村との協定以来、昨年の救急の日である9月9日に、8ヶ町村の総務課長、保健課長クラスに参集いただき救急医療懇談会を平石町で開催し、岩手郡医師会の救急災害時の問

題点や高次救急センターの谷口繁先生の講演を学びながら対策要綱の見直しを実施致しました。しかし現在岩手県レベルでの見直しが成されておりますので、特にその整合性を図る必要があるわけで、さらに充実した内容にする作業が残されております。実際にはやはり緊急時には多くのアマチュア無線家の協力を得るように日頃のネットワークの整備を進め、年に数回の非常通信訓練等を実施して日頃の準備と啓発活動が大切であろうと思われます。さらにパソコン通信やファックスそしてインターネットの活用等が検討課題として方向付けが必要であります。

昨年春から盛岡のドクターハムを中心として「メディカルネット盛岡」が正式に誕生致しました。これらのネットが全県的に広がり全県下のドクターハムクラブが裾野を拡げて普及するため、手初めに、岩手郡も西根町、松尾村、安代町等を中心に連携した地域のハムクラブを一般のアマチュア無線家の参加と協力を得て形成して参りたいと考えております。

医師会経務の大切な役割のもう一つは、医師会会員の相互連絡と教育研修等の情報の提供であり、多くの研究会、研修会の開催の連絡方法、情報伝達の工夫が必要であります。さらに各地域の医療や保健、福祉に関わる諸問題の助言援助活動も重要であると思われます。激動する地域医療の変革に乗り遅れないための努力と情報の共有化が最も大切な問題であろうと思われます。そのために郡医師会会員相互の日常連絡網の整備構築を急ぐことが当面の課題であり、郡医師会の活動を支える出発点となると思われます。

[学校医]

担当理事 上原 充郎

第2回学校医部会幹事会

平成7年度、第2回学校医部会幹事会が平成8年2月10日(土)、岩手県医師会館において開催された。その時の次第、平成8年度学校保健事業計画および平成8年度学校保健行事予定を右ページに掲載致します。この会で



上原充郎 先生

の大切な事項は県医師会と岩手県教育委員会との間で、“インフルエンザ”と診断することは困難が多いため、“インフルエンザ様疾患”という診断名で“インフルエンザ”と同様の取り扱いをするという事が決定したことです。もう一つは、各都市医師会に幼稚園保育園医部会を組織して学校医と同様積極的に活動しようという点です。

尚、学校伝染病証明書は県医師会館内、いわて医師協同組合で販売しております。

第2回学校医部会幹事会

日時 平成8年2月10日(土)午後3時
場所 岩手県医師会館 3階 中会議室

○ 報告

- (1) 平成7年度活動状況について
- (2) 県教委との懇談会について
- (3) 第26回全国学校保健学校医大会について
- (4) 平成7年度学校保健講習会について
- (5) 平成7年度乳幼児保健講習会について
- (6) 県内における学校保健委員会の現況調査中間報告
- (7) 盛岡市における赤痢の集団発生について
- (8) その他

○ 協議

- (1) 平成8年度事業計画(案)について
- (2) 平成8年度予算(案)について
- (3) 各都市医師会における幼稚園保育園医部会の活動について
- (4) その他

平成8年度学校保健行事予定

H 8. 6	第1回学校医部会幹事会
H 8. 6	第7回小児成人病予防対策委員会
H 8. 8. 25	第8回東北学校保健・学校医大会(於 宮城県)
H 8. 11	県教育委員会との懇談会
H 8. 11. 16	平成8年度第27回全国学校保健・学校医大会(於 佐賀県)
H 9. 1. 19	第13回岩手県学校保健・学校医大会 第2回学校医部会幹事会
H 9. 1	日医主催平成8年度学校保健講習会 (於 日本医師会大ホール)
H 9. 1	日医主催平成8年度乳幼児保健講習会 (於 日本医師会大ホール)

平成8年度学校保健事業計画(案)

- (1) 第13回岩手県学校保健・学校医大会の開催
- (2) 各種検診活動の推進
- (3) 小児成人病予防対策の展開

- (4) 学校保健委員会活動の推進
- (5) 児童生徒の今日的問題の検討
(精神衛生、思春期、スポーツ等)
- (6) 幼稚園保育園保健活動の推進
- (7) 学校保健関係団体との連携

[保険]

担当理事 佐々木 久夫



佐々木久夫 先生

平成 8 年 4 月より
診療報酬が改定され
ます。これにより県
医師会での説明会が、
3 月 14 日に行われ、
郡医師会での説明会
は 3 月 25 日（月）県
医師会館にて行われ
る予定です。各医院

の事務職員など多数参加されますようお願
いします。

していただき、会員の先生方に会を盛り上
げて下さるよう切にお願いする次第です。

第48回親睦野球大会は 8 月 25 日、北上市
医師会が担当で北上市営球場を主会場にし
て盛大に開催されます。岩手郡医師会の活
躍を祈りたいと思います。

第29回親善ゴルフ大会は平成 8 年 9 月 15
日、宮古、釜石両医師会の担当で宮古カン
トリークラブでクリニックマガジン主催の
全日本医師ゴルフ選手権県予選も兼ねて開
催されました。

会長杯争奪岩手郡医師会親善ゴルフ大会
は今年も春、秋の二回行う予定ですので会
員の先生方多数の参加を期待しております。

第25回岩手医家美術展は、平成 8 年 11 月 25
日から 27 日の 3 日間岩手県医師会館で開催
されます。

一日人間ドックは本所で 4 回、県南セン
ターで 2 回の合計 6 回行われます。岩手郡
医師会からの参加者はきわめて少ないよう
です。医師国保に加入の方は全て無料です
のでご利用下さい。

弔慰金及び入院見舞金給付については不
幸にして会員の先生が亡くなられた場合は
30 万円の弔慰金が支払われます。また入院
加療を受けた場合も見舞金が医師会から出
ますので県医師会にお知らせ下さい。

日医年金及び各種保険の加入状況は A 会
員はおおむね良好ですが、B 及び C 会員の
先生方の加入が少ないようです。特に一億
円迄保証される日本医師会医師倍償保険へ
の B 会員の先生方はわずかに 106 名 (11.9%)
の方々だけとなっております。医療訴訟の
多い昨今より多くの先生方の加入が望まれ
ます。

グループ保険は第一、第二の二つのグル
ープ保険がありますが、第一グループ保険に
加入されていた先生方の多くがご高齢とな
り、初期の約束が不可能となりネーミング
は変わりませんが、機能は第二グループ保
険と全く同じものに成りました。高額の保
険を希望される先生方は二つの保険に加入
なさって下さい。

以上福祉担当からの報告と致します。

[福祉部会]

担当理事 坂井 博毅



坂井博毅 先生

平成 7 年 5 月 20 日
(土) 岩手県医師会
館に於いて都市医師
会福祉担当理事会が
開催されました。この
件に関しては前回
の総会でご報告いた
しましたので省略さ
せていただきます。

医師並びにその家族と職員のための福祉
事業はどうあるべきか大変難しい問題であ
る。これまで試行錯誤しながら実践してき
ましたが、充分な活動とは言い難いのが現
状であります。県医師会レベルでの事業も
さることながら、特に郡医師会単位の活動
が不十分のように思われます。

高橋会長先生はこうした現状に思いを致
し、数年前より医師と家族ならびに職員の
岩手山登山、ボーリング大会、ゴルフ愛好
家による会長杯争奪ゴルフ大会などを計画
実践してきましたが、残念ながら参加者が
少なく、満足のいくものではありませんでした。
今後こうした企画にふるってご参加

[産業医部会]

担当理事 八角正司



八角正司先生

- (1) 従業員50名以上の事業所における産業医の委託を義務付ける。
- (2) 産業医権限が強化されますが、それに伴って責任も重くなります。
〈例えば職場巡視など〉
- (3) 健康診断の結果、事業主が産業医の診断・指示に従い事後指導及び事後管理の充実をはかることになります。

将来、産業医は認定産業医に限定されると予想されます。まだ認定産業医になっていない先生方は研修会を受講して産業医の認定をうけて下さい。

これまで県単位で行って参りました産業医実地研修会は、平成6年度より各郡市医師会ごとに開催されています。

岩手郡医師会では平成6年度には玉山村のアルプス電気システム機器事業部で実地研修を行い、平成7年度は岩手郡西根町大更の盛岡北部工業団地にある有限会社トーノ精密西根工場に於いて、岩手郡医師会産業保健研修会（日本医師会認定産業医基礎・生涯〈実地〉研修）を実施しました。

[広報]

担当理事 鳴 信



鳴 信先生

最近の医師会活動を見て感じることは、従来に比し、毎月或は隔月に行事があります。これらについては県医師会発行の「いわて医報」を見てもわかると思いますが、十分目を通していただきたいと思います。確かに広報活動は、速報性も必要でしょうが、一面記録

性も重要な部分と思われます。

「いわて医報」「岩手郡医報」に限らず、各先生方にはいろいろな情報が届けられると思いますが、これらの取捨選択は自由ですが、「岩手郡医報」は主に記録性に重点をおいて編集しています。

郡医師会での行事を中心として、平成6年度には3回、平成7年度には既に4回の発行を終えました。内容としては

- 1) 報告事項
- 2) 行事の状況について
- 3) 隨想など文芸的なもの
- 4) 人事異動
- 5) 職員より書いていただく「おらほの先生」は、郡内の先生方には既に19名の方々の参加を得ました。でも中には職員の方よりおことわりの医院も数人いるのは残念なことと思います。

毎回の総会のときにもお願いしていますが、身近に起ったことや学会・研究会に参加して感じたことなどいろいろの出来事をメモして、それらを総めて医師会事務局に投稿していただければ幸いです。

今後ともよろしく御協力の程お願いします。

広報は皆さんのが参加をお待ちしております。

[健康・生涯教育]

担当理事 岡本 彰



岡本 彰先生

平成7年度県民健康講座は、岩手町を会場として、平成8年1月24日の開講式から1月31日、2月7日の修了証書授与式まで、県立沼宮内病院の先生方及び高橋会長、和田先生、坂井先生など地元の先生方により主に「痛みについて」をとりあげ、その他共通テーマである「骨そしょう症」にもふれ、岩手町の勤労青少年ホームで開催された。

参加者の平均年令は64~72才であり、修了証をうけとった方は113人となっています。

次回平成8年度は西根町の予定ですので、西根町の先生方よろしくお願いします。

次に生涯教育についてですが、申告率が非

常に悪い。つきましては平成8年3月号の日医雑誌に申告票がついてきますのでそれに記入の上ぜひ多数の方が提出して下さることを期待します。

労災保険情報センターは平成8年度も労災指定医療機関の長期運転資金(最高500万円)の貸付を行うが、必要な方は期間(5月27日から6月11日まで)内に申し込むように!!

[医師連盟]

担当理事 根本 忠夫



根本忠夫 先生

2月24日に行われた県医師会代議員会において、県医師会長他役員の改選が行われ、県医師会長には現会長の石川先生が無投票で再選されました。また副会長には現副会長の岩手郡医師会長の高橋牧之

介先生が再選されました。これから御活躍を期待します。

岩医厚生(株)は一時期かなり財政緊迫のときもありましたが、だいぶもち直したようです。

医師連盟の活動については未だいつ選挙が行われるか不明のため主な運動はありません。

[労災保険]

担当理事 篠村 達雅



篠村達雅 先生

年1回の幹事会があります。前回は労災保険、損保の改定があった事、自賠責保険は新規準で実施されている事、交通事故と医療の法律の問題等について話し合いがありました。

新規準になってのメ

リット：医療費の支払いがスムーズになり、健康保険の強要が少くなり、外来収入が増加。デメリット：レセプトの複雑化、小規模損保が入っていない、入院部門がやや減収。他県では種々問題があるようだが岩手県ではスムーズに施行されている。中には室料差額をまけろとか、まけたらすぐ支払う等の損保もあるようなので、その時は担当の高橋(牧)県医副会長に連絡、相談する事。

[勤務医部会]

担当理事 佐藤 郁郎



佐藤郁郎 先生

2月24日に行われた第59回勤務医部会常任幹事会において、特に癌、脳卒中発生報告、及び医師会生涯教育への勤務医のより一層の協力、参加が求められていることを報告した。平成8年1月20

日、岩手郡担当で第68回勤務医部会幹事会並びに岩手郡医師会勤務医部会会員懇談会が行われ、多数会員の参加のもとに、県立沼宮内病院、滝沢中央病院、いわてリハビリセンター、東八幡平病院、国保葛巻病院の各先生より、各病院の現状及び問題点等につき報告がなされた。

今後は年一回位、郡勤務医部会会員による会を開催し、より一層の連絡、懇談の機会をもちたいと計画しております。

[その他]

郡医師会副会長 西島 康之 「かかりつけ医」について



西島康之 先生

盛岡地域かかりつけ医推進委員会(盛岡市、岩手郡、紫波郡の各医師会)において、平成7年12月に122ページにも及ぶ立派な小冊子「かかりつけ医必携」が出来上がり、皆さんのお手元に届いたこと

と思います。

これについては来る3月31日、日本医師会において、かかりつけ医推進モデル事業報告会があり、盛岡市医師会副会長の真瀬先生が、シンポジウムとして詳細に発表することになっています。

(2) 平成 8 年度岩手郡医師会事業計画

二十一世紀に向けた医療の動向は、世界的な規模で変革しようとしている。疾病構造の変化、少子化と急速な高齢化、多様化する患者ニーズに対応しなければならない。

国民医療体制の創造に向かって、保健、医療、福祉の総合的展開は必要不可欠である。

一方、政治、経済の動向は、やや明るい兆しをみせながらも混乱を脱しきれず、医療機関の経営を安定し、かつ良質な医療サービスを継続するためには、幾多の困難が予測され、その対応策が急務となっている。

当面する課題に医師会は、自治体との連携を密に、各領域の諸施策に積極的に参画し、地域医療確保のため総意を結集しなけ

ればならない。

そのためには、県・都市医師会と緊密な連携をとり、会員一人ひとりの理解と協力が必要である。

つぎの事項を重点事業とする。

1. 医道による済世
2. 県医師会の事業への全面協力
3. 医政の強化
4. 有効な地域医療活動の展開
5. 会員福祉の充実
6. 保険診療の適正化
7. 生涯教育の推進
8. 医業経営の安定への努力
9. 地域住民への健康教育の充実
10. 関係団体との連携

(3) 平成 8 年度・一般会計予算書

自：平成 8 年 4 月 1 日
至：平成 9 年 3 月 31 日

社団法人 岩手郡医師会

単位：円

《歳入の部》

科 目	金 額	摘要	要
繰 越 金	5,400,000	前年度より繰越	
会 費	5,300,000	A会員 44人 4,180,000 (@95,000×44人) B会員 35人 (免除3人) 1,120,000 (@35,000×32人)	
補 助 金	508,000	県民健康講座 425,000 地域医療 28,000 学校医 55,000	
雑 収 入	30,000	預金利息	
合 計	11,238,000		

《歳出の部》

科 目	金 額	摘要	要
[事 業 費]	(9,938,000)		
会 議 費	2,600,000	総理事務会 2回 1,200,000 総務会 6回 600,000 監事会 12回 600,000 県医会費 1回 100,000 会費 1回 100,000	
担当部会別活動費	700,000	総務会 50,000 産業会 100,000 医学部会 50,000 保健会 100,000 福祉会 50,000 地域会 100,000 広報会 50,000 労働会 50,000 勤務会 100,000 健康会 50,000	
生 涯 教 育 費	1,700,000	医学講演会・懇談会 800,000 学校医研修会 200,000 スポーツ医学研修会 100,000 救急医療対策費 200,000 生涯教育連絡会 100,000 地域医療研修会 200,000 予備費 100,000	
地 域 保 健	700,000	各町村の地域保健懇談会 600,000 他都市との懇談会 100,000	
広 報 発 行 費	658,000	印刷費 6回 500,000 発送費 6回 72,000 編集会議費 50,000 雑費 36,000	

租 税 公 課	80,000
旅 費 交 通 費	1,300,000
交 際 費	1,000,000
慶弔見舞金	600,000
広 告 賛 助 費	200,000
雜 費	200,000
予 備 費	200,000
【事 務 費】	(1,300,000)
事 務 費	1,300,000
	事務連絡費 100,000 通 信 費 350,000 消 耗 品 費 300,000 印 刷 費 100,000 リース料 230,000 事務処理費 120,000 雜 費 100,000
合 計	11,238,000

(4) 平成8年度・休祭日当番医予算書

自：平成8年4月1日

社団法人 岩手郡医師会

至：平成9年3月31日

単位：円

《歳入の部》

科 目	金 額	摘要	要
繰 越 金	8,000,000	前年度より繰越	
補 助 金	3,846,000		
雜 収 入	14,000	預金利息	
合 計	11,860,000		

《歳出の部》

科 目	金 額	摘要	要
報 償 費	6,380,000	健康教育費 1,580,000 (@20,000×79人) 生涯教育研修費 600,000 救急対策費 500,000 町村との連絡協議会 1,400,000 県医野球大会 600,000 県医ゴルフ大会 100,000 郡学校保健会補助金 100,000 講演会・合同研修費 1,000,000 厚生対策費 500,000 会議費 3回 300,000 通信費・消耗品費 100,000	
需 要 費	400,000		
旅 費 交 通 費	700,000		
役 務 費	180,000	印刷費 100,000 通信電話料 80,000	
予 備 費	200,000		
次 期 繰 越 金	4,000,000		
合 計	11,860,000		

(5) 任期満了による役員選挙について

1) 郡医師会理事会（2月1日）にて、下記

の方々を県医師会へ報告することが承認されました。

県医師会代議員：根本忠夫、及川忠人

予備代議員：三善 悟、谷藤一生

県医師会理事：西島 康之

県医師会裁定委員：近藤 純造

2) 郡医師会役員

推薦委員による推薦。

委員：西島、坂井、斎木、八角、三善、

根本、細井、及川、山田、柄内、

篠村の各先生。

次の通り決定。

会長：高橋牧之介

副会長：高橋 孝

副会長：西島 康之

理事：坂井 博毅・佐々木久夫

岡本 彰・上原 充郎

柄内 秀彦・根本 忠夫

嶋 信・及川 忠人

篠村 達雅・八角 正司

監事：細井 信夫・高橋 克郎

平成7年度・岩手郡地区学校保健会研修会



研修会 会場

平成7年11月4日（土）、午後2時より岩手県自治会館において開催されました。この会は高橋孝先生が会長をされている岩手郡地区学校保健会が主催したものです。今回は講演を主とした会で、演題は「食生活と児童生徒の健康」と題して、講師は畠山こども健康相談所所長、畠山富而先生です。畠山先生は昭和30年岩手医大卒業、昭和52年同医大小兒科助教授、昭和57年～平成6年まで総合花巻病院副院長、そして現在は畠山こども健康相談所所長、岩手医大客員教授です。又昭和47年に日本小児科学会保健賞受賞されています。現在は日本臨床栄養学会評議員、日本小児保健協会評議員（前理事）、日本小児保健協会栄養委員など、要職につかれ御活躍しております。

講演内容



畠山富而 先生

性の発達する大切な時期である。平和な家庭の中で穏やかな気持ちで授乳することの大切さ、すなわちスキンシップ（目と目、

岩手郡医師会理事 上原充郎

日時 平成7年11月4日（土）

午後2時～

場所 岩手県自治会館

声と声、皮膚と皮膚）の大切さ。

- ② 食事と生活リズム（体内時計）

生物学的行動リズム、要するに摂食、運動排泄、睡眠のリズムがある。昔からの早寝、早起き、3度の食事の大切さこれがくずれると時差ボケ状態がおきてくる。

 - ・夕食は午後8時前に終える。
 - ・小学生は午後9時半までに眠る。
 - ・中学生は午後10時半までに眠る。

- ③ 小児の成人病病態とその予防

主に肥満と高脂肪血症（高コレステロール血症、高中性脂肪血症）においてお話しされた。小学5年生の場合必要総カロリー2000Kcalであり、その中の蛋白は14～15%、約60gで充分でこの中の動物性蛋白は45%でいいが、現実は50%を越えている。又脂肪は総カロリーの25%で60gで充分であり、動物性脂肪2、植物性脂肪3が理想であるが現実は逆である。

お話しの中からの格言

- ① てんぶらはひざの上で
手づくりとし、残り物は食べない方がいい。油は時間が経過するにしたがい酸化して悪玉脂肪になる。
- ② 玉子に玉子をかさねない
スジコ、イクラ、カズノコ、鶏卵を玉子とし、いずれか1日1回かぎりとすること。
- ③ ねり物、かため物は高カロリー
バター、チーズ、かまぼこ、チクワ等は水分含量が少なく結果として多く食べ過ぎる。
- ④ レバーは回数は多く、1回量は少なく。
- ⑤ トーフ、魚はセットで料理。
- ⑥ アイス、ヤクルト、ヨーグルトはみな牛乳1本と同じ。これらは1日2本以内とする。本来は牛の飲み物である。
- ⑦ 肉3、魚4
1週間の夕食毎の動物蛋白の回数。
- ⑧ 納豆、とうふ、そば、あづきは最良食品
- ⑨ 根菜、海藻、黄色野菜、しいたけも最良食品
- ⑩ 食物は母の手でうす味、美しく、美味しい、香ばしく、バランスよく、子供の成長にあわせて。

第8回岩手郡地区学校保健・安全・給食大会

岩手郡医師会理事 上原充郎

(1) 研究発表

① 西根町学校保健会

テーマ

『もし歯予防の意識の高揚と望ましい食習慣の育成を目指して』

発表者 西根町立浜川小学校

養護教諭 中野百子先生

② 松尾村学校保健会

テーマ

『自ら気付き、考え、行動化できる子供の育成を目指して』

発表者 松尾村立松尾中学校

養護教諭 松村優子先生

(2) 講義

テーマ 『学校歯科保健について』

講師 沼宮内歯科医院

岩渕邦子先生

(3) 研究協議(座談会)

座長 つなぎ歯科医院

院長 鈴木哲男先生

表記大会が今年2月
17日(土) 14:00より
盛岡市アイスアリーナ・2F・会議室にお
いて開催されたので御
報告致します。

鈴木哲男副会長のあ
いさつの後、左の内容
の様な2題の研究発表
と1題の講義が行われ
た。今年は例年になく
100人をこえる参加者で、特に校長先生方の
参加が多かった。とてもいいことであり、こ
れがこの会の本当の姿と思われる。2つの研
究発表はどちらも養教の先生方が熱心に取り
組み、全校生徒に自覚を促し、積極的に参加
させた実り多いお話しであった。岩渕邦子先
生の講義は御自分の診療活動や校医活動を通
じて得た事実を、わかりやすく、そしてとても熱のこもった有意義な内容のお話しでした。



岩渕邦子先生

『葛巻医歯会だより』

健康で生きがいのある人生をおくる事は、誰しもの願いです。人間が成長し生活していく為の基本は健康な体であり、きちんとした体力を持つ事が必要です。しかし、現代の豊かで、快適な文化社会の中で、何もかもまかせっきりになったり、この急速な社会構造の変化や文化の進化に適応できず、思わぬ健康障害がおきています。

そこで、現代社会の生活に適し、健康で生きがいのある生活をおくる為に私達葛巻医歯会では、昭和50年より葛巻保健センター・各自治会と一緒に健康講座を年数回開催しております。平成7年度は、新町自治会館を会場として、次のような内容で行われました。

1. 高血圧とは

早藤医院院長 早藤一雄

2. 糖尿病と食事

葛巻病院内科長 鈴木順

3. 心臓発作の応急処置(心肺蘇生法)

葛巻病院副院長 高橋克郎

4. 骨粗鬆症

葛巻病院産婦人科長 秋元義弘

また、平成8年度は江刈五日市生活改善セ
ンターを会場として、次の内容で開催するこ
ととしております。

1. 成人病を考える(特に癌、心臓病、
脳卒中、習慣病について)

西島医院院長 西島康之

2. 常識の間違い

葛巻病院副院長 岡田信親

3. 歯と健康管理

コアラ歯科院長 植山義浩

この健康講座で、町民の方々は正しい病気の
知識を持つようになり、年々健康診断の受
診率が高まっていることは、大変有意義であ
り今後も続ける所存です。

なお、当医歯会では、毎月1回葛巻病院医
局において、症例検討会やビデオ供覧等、今
日の医療について勉強会を行っております。

また、高橋牧之介医師会長には遠い葛巻町
まで、毎年1、2回足をはこんで頂き、昨年
は「在宅訪問看護のあり方」「保険・医政問題」
等最新の話題を講演していただきました。こ
の紙面をおかりして感謝申し上げます。

勉強会司会人 岡田信親

岩手県民健康講座

岩手町にて開催



閉講式（終了証書授与）



県民健康講座でのエアロビクス

平成7年度の岩手県民講座は平成8年1月24日（水）から2月7日までの毎水曜日、3回にわたりて岩手町勤労青少年ホームで開催された。各回の出席状況は表-1の通りである。開講第1日目は開講に先立ち、開催地、岩手保健所長玉田清治先生（代理）と岩手町町長田中幸平氏（代理）の挨拶があり、続いて岩手郡医師会長高橋牧之介先生が医師会を代表して挨拶された後、「かかりつけ医について」と題して、平成5年度から始めた厚生省の「かかりつけ医推進モデル事業」として行われている盛岡医療圏の実態について述べられた。地域住民の方々は「かかりつけ医」を健康の相談が気軽に出来る「先輩」として、症状と専門医を結びつける「仲人」として、家族の健康を舵取りする「船長」としておおいに利用されるように、解りやすく解説された。

開講第1日目の第2席は「頭痛について」と題して県立沼宮内病院院長の斎木巖先生が頭痛の分類や痛みの種類について、脳外科の専門医としての立場から、格調高いお話を大変解り易く、易しい言葉で解説されました。

開講第2日目、1月31日の第1席は「胸痛について」和田医院和田利彦先生が、生命を脅かす3大胸痛、虚血性心疾患、解離性大動脈瘤、肺梗塞のうちご専門の虚血性心疾患に

ついて、膨大な資料の中から解説された。

特に小児期からの食生活の大切さを懇切丁寧にお話された。

第2席は「腹痛について」と題して県立沼宮内病院理学診療科長、高橋真先生が腹痛の原因と分類、そしてその理学的検査について解説された後、主に岩手町で数年前から実施している胃集団検診、大腸検診について、身近な問題をとりあげ解説された。

最終日、2月7日の第1席は「腰痛について」と題して県立沼宮内病院副院长、佐藤敏通先生が腰痛の分類、腰痛のポイント姿勢、体操、医療行為について、自己体験もまじえて、スライドではなく黒板を使って解説された。これが受講者に大変好評でした。

第2席は「骨粗しょう症について」と題して、不肖私、坂井が婦人科的立場から、主に閉経後の骨粗しょう症の発生機転、女性ホルモンとの関わりあいについて、解説するとともに、高齢化社会におけるQOLに焦点を合わせ、女性ホルモン補充療法、栄養、運動について解説した。最後に高齢者向けの比較的テンポの遅い、エアロビクスをデモンストレーションして終了した。

今回は「痛みシリーズ」で健康講座が企画され、講演後のアンケート調査結果を以下示す。（文責 坂井）

県民健康講座出席状況

	男	女	計
申込者数	36人	113人	149人
参加数			
1回	32人 (88.9%)	91人 (80.5%)	123人 (82.6%)
2回	28人 (77.8%)	76人 (67.3%)	104人 (69.8%)
3回	29人 (80.6%)	79人 (69.9%)	108人 (72.5%)
平均年齢	72.2歳	64.0歳	65.9歳

表-1

終了証 113人

アンケート集計概要

1. 参加状況

受講者 男 34名 女 99名

計 133名 平均年齢 66.0歳

修了者 男 29名 女 84名

計 113名 平均年齢 65.6歳

2. アンケート回答者

男 28名 女 78名

平均年齢 男 70.8歳 女 62.3歳

(60~69歳45名 70~79歳28名 50~59歳17名)

3. 職業

主婦38名 (36.9%) 無職34名 (33.0%)

農林業18名 (17.5%)

4. 健康について

健康については、「健康ではあるが、常に注意している」と回答した者が最も多く78名で全回答者の70.6%を占めている。

健康についての相談相手としては、医師が最も多く58名 (53.7%)、次が家族で33名 (30.6%) となっている。

5. 県医師会が健康教育用として放送しているテレビ及びラジオ番組「健康で長生きするため」を見た(聞いた)ことがあるか。

テレビについては、「時々見ている」が59名 (55.7%)と最も多く「見たことがない」がそれに続いて34名 (32.1%) となっている。

ラジオについては「時々聞いている」が44

名 (43.1%)、「聞いたことがない」が43名 (42.2%)と拮抗している。

6. 県民健康教育センター(県医師会館内)について。

「知らない」と回答した者が最も多く69名 (66.3%)、「知っているが利用したことがない」と回答した者は35名 (33.7%)となつており「利用したことがある」と回答した者はなかった。

7. 岩手県県民健康講座以外に他の健康講座(講話)を聞いたことがあるかについて。

「ある」と回答した者が72名 (69.2%)、「ない」と回答した者が32名 (30.7%)であり、「ある」のうち町村主催のものが最も多く45名であった。

8. この講座を何で知ったかについて。

町の広報と回答した者が圧倒的に多く87名 (80.6%) であった。

9. 募集方法について。

「今までよい」という回答が最も多く62名 (62.0%) であったが「もっとPRした方がよい」と回答した者もかなりあり37名 (37.0%) であった。

10. 開催時期について。

1~3月と回答した者が最も多く67名 (67.7%)で、次は4~6月の19名 (19.2%)

であった。

11. 開催日数について。

3～4日と回答した者が最も多く73名(75.3%)、5～6日と回答した者がそれに次ぐが18名(18.6%)にとどまった。

12. 講座の時間帯について。

午後(1時～5時)が最も多く84名(84.8%)であり、次は午前中が13名(13.1%)であった。また、午後(5時～9時)と回答した者が2名(2.0%)あった。

13. 1教科の時間について。

4つの選択肢についてばらつきが見られ、1時間30分が28名(28.3%)、1時間が25名(25.3%)、45分及び2時間と回答した者がそれぞれ23名(23.2%)であった。

14. 講座の内容について。

「よく理解できた」と回答した者が30名(30.9%)、「まあまあだった」と回答した者が60名(61.9%)であり、「むずかしくてよく理解できなかった」と回答した者は6名(6.2%)にとどまった。

15. 受講して得た知識が、日常生活に役立つと思うか。

「非常に役に立つ」と回答した者が56名(57.1%)、「まあまあである」と回答した者が41名(41.8%)であった。

16. 今後加えてほしい教科について(複数回答のためパーセンテージは算出せず。)

「心の健康」が最も多く61名であり、「食生活改善などの栄養に関するもの」40名、「家庭介護」24名、「様々な病気の予防、治療に関するもの」21名となっている。

17. 今までにこの健康講座を何回受講したか。

「今回が初めて」と回答した者が44名(44.9%)、「2～3回」と回答した者が39名(39.8%)であった。

18. 今後も出席を希望するかどうかについて。

「今後も出席したい」と回答した者が79名(76.7%)、「内容によっては出席したい」と回答した者が24名(23.3%)であった。

19. 意見・感想について

(1) 講座の内容に関するもの

・スライドを使っての講座で大変わかり

やすかった。

・毎年続けてほしい。

・スライドを見せていただくよりめんどうでも黒板に書いて説明してもらいたいと思いました。腰痛のお話は黒板で説明くださってとてもわかりやすかったです。

・講座に参加してとても勉強になったこと、お友達もでき2回目の出席も樂しくなり3回参加してお話を聞くことができ、私にはとてもよい勉強会でした。次回も楽しみにしております。

・高齢化社会(人生80年時代)に関係のあるお話で有意義でした。

・腰痛のお話はとてもよかったですと思いました。これからも腰痛のお話はしていただきたいと思います。

・腰痛については講演は具体的な説明で大変わかりやすくとても参考になりました。すぐに実行できることだと思います。

・部落ごとにこのようなことを開催していただけたらもっとたくさんの人が参加するようになると思います。健康で長生きすることへの意義をもっと身近に考えたいものと思います。

・講義の内容についてつけ加えてほしいと思うのは、現在の医療制度についても初めに加えてほしいと思います。

・講義の声が後ろまではっきり届かないうえ、内容が先生によって医学的なでお年寄りには理解しにくいのではないか。

・あまり専門的になるとむずかしいので身近な事等がよいと思います(成人病等)。

・知識を得ることができました。早期に発見しとにかく自分の健康は自分で管理することだと感じました。2月7日は具体的で大変よかったです。

・講座によって理解不十分なものもありましたがたいていはわかりやすくお話ししてくださいましたので理解できました。

筋力をつける運動等時間をもっととつて実際にやってみたかったと思います。エアロビクス体操実技楽しくやれました。岩手県民健康講座がもっと多くの回数各地域でなされるといいと思います。岩手町でも早くまたこういう機会をほしいと思います。

(2) 講座の運営に関するこ

- ・講師の持時間45分は短いと思う。もう少し長くしてほしい。(2件)
- ・できるだけ資料をたくさん配布してほしい。話やスライドだけではすぐ忘れがちである。
- ・3年に1回ぐらい開催してほしい。
- ・もっと若い人がたくさん参加して開いた方がよいと思います。
- ・会場に机まで準備していただき有り難

うございました。またテキストにメモ欄まであって細かい所までゆきとどいた心づかいに拍手を送りたいと思います。

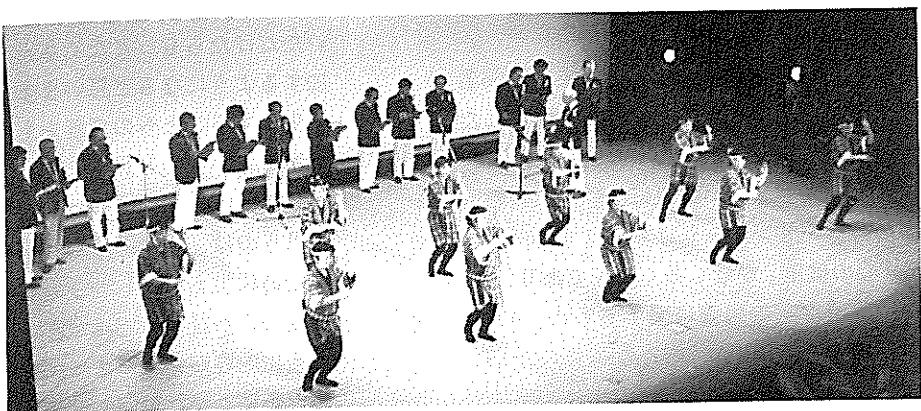
- ・マイクの状態がよくなかった(10件)。
- ・会場は寒かった(3件)。
- ・開催時期は寒い時期でないほうがよい。

(3) 反省点

第1回目の時は、マイクの設定にまずい点があり、後ろの席の参加者からよく聞こえないという声があり、アンケートにもそれが反映されたと思われる。また、同じく1回目、暖房も不十分であり、両者について2回目から改善したところ、よくなつたという反響であった。

零石医療団 チャリティーショーへの出演

零石町 上原充郎



チャリティショー（零石町医療団）

零石町では毎年、社会福祉協議会が主催する年末チャリティーショーが行われ、我々零石医療団(町内の医師と歯科医師の親睦団体)も7~8年前より賛助出演している。3年前からは団員によるコーラスを行っている。一昨年は“南部よしゃれ”にハーモニーをつけ、更に各病・医院の女子職員による手踊りを加えて大好評であった。写真は昨年行われた時

のものでソーラン節をコーラスで我々が歌い、女子職員が踊っているところである。この他に「赤とんぼ」、「Love Me Tender」をコーラスで歌い、更にコーラスをバックに団員一人ひとりがソロをとって美しくうたいあげ、約1000人の観衆の大喝采をうけた。

弔 辭

和田栄吉先生に捧ぐ



和田栄吉 先生

んでご逝去を悼みご冥福をお祈り申しあげます。

先生は昨年十二月七日の岩手郡医師会の役員会においてになり、体調が思わしくないので今日の役員会を最後にさせていただきたいとふだんと変わりないご様子で申されました。

先生が昨年来健康を損なわれておいででありましたことは存じ上げておりましたが、まさかあの声が最後になろうとは思いもよらぬことで、必ずや早くに回復なさるものと信じておりました。

しかし病魔はついに先生を奪うところとなり不帰の客となって黄泉に旅立たれてしまいました。まことに哀悼痛恨の情に耐えません。

私は十六日の朝先生の訃報に接し、驚きと悲しみに閉ざされました。

ご靈前にお別れの言葉を申し上げることになりましたのは誠に悲しく残念なことであります。

先生は昭和二十四年岩手医学専門学校を卒業後、東京大学病理学教室で学ばれ昭和二十八年に岩手町川口に和田医院を開業され、昭和四十二年には盛岡市菜園の農林会館に和田胃腸科医院を開設なさいました。

以来先生は郡医師会の皆さんに推されて昭和二十六年から理事、昭和四十二年岩手県医師会代議員、昭和四十八年には副会長、昭和五十六年からは議長を務められ平成二年より監事として長期にわたって診療の傍ら医師会活動地域医療に貢献され会員の指導者として地域住民が安心して望ましい医療を受けることの出来るような諸条件を整えることに尽力

本日ここに岩手郡医師会理事、副会長、議長、監事として長期に亘り、医師会活動に地域医療に尽瘁されその功績甚大であった和田栄吉先生のご葬儀にあたり、岩手郡医師会会員一同と共に謹

されその功績は尽大なものでありました。このような功績により昭和四十六年僻地診療功労により岩手県医師会長表彰、昭和六十二年には医療功労により読売新聞社表彰を、昭和六十三年には保険医療功労で岩手県知事表彰平成3年には勲五等瑞宝賞を受賞され引き続き奉仕に尽瘁しておられました。

先生は厚顔誠実な学究の徒で、会員の学術面生涯教育に熱心であらせられよく会員の意見を聞かれ我々の良き相談相手となっておられました。

先生は決して自己主張を無理に通したり自己顯示をなされたことは殆どなく人徳が自然に先生の考える方向に動いていたと思います。

医師会にあっては緻密な思考力と卓越した指導力を遺憾なく發揮され岩手郡医師会の運営に寄与下さいました。

これからもご指導頂かなければならぬ時に有為な指導者を失ったことは当医師会として甚大な損失で痛恨の極みであります。先生の数々の教訓を心に刻みこれを実践して医師会作りに努力することが先生のご恩に報いる道と信じます。

ご遺族のかたがたのお悲しみも如何ばかりかとお察し申し上げお慰めの言葉もございません。

ご子息の利彦先生が先生の後を継いで医療の道に精進しておられますことは何より心強いことであります。

今や私たちは先生と幽明鏡を異にすることになりましたが、先生が築き育てて下さった岩手郡医師会を引き継ぎ先生の精神を継承していく覚悟でございます。

先生、何卒われわれを見守りながら安らかにお休みください。

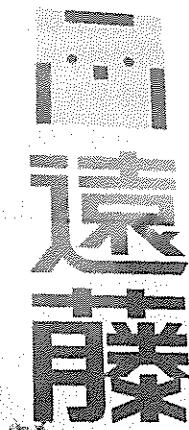
先生のご遺影を仰ぎながら数々のご功績とご人徳を忍び安らかにご冥福をお祈り申し上げましてお別れの言葉といたします。

平成八年二月二十四日

岩手郡医師会長 高橋 牧之介

おらほの先生

滝沢村 遠藤医院の巻



私達の医院に来た患者さんの多くの人に、よく聞かれる事があります。「あの看板の絵は、犬ですか。」いいえ、犬ではありません。遠藤医院のマークは、熊なんです。このマークが決まるのには、秘話があります。

院長と、その奥様が初めて出会った時、奥様は「まあ、なんて熊みたいな人」と思つたそうです。その日から院長の代名詞は熊になったのです。でも患者さん方は、皆、院長の事を「猫先生」と呼びます。私達もこっちの方がしつかり馴染みます。だって院長の家には猫が2匹同居しているのです。院長によく似た、体重6kgもある大きな猫ちゃんと、奥様の様に小さい猫ちゃん、2匹はやっぱり夫婦なのです。だから院長の家には、夫婦が2組も居るんです。この猫ちゃん達を目に入れても痛くないほど、かわいがっているので猫達も院長にべったり。こんなに若い私達が寄っても、見向くもしてくれないんです。猫ちゃん、時々は私達にもあまえて下さいネ。

院長の好きな物のもう1つにテニスがあります。これも“超”がつくほどで、年中頭の中はテニスで埋まっている様です。私

達は密かに、いつか院長に10回コースのテニススクールを開いてもらい、レッスンを受けてみたいと思っています。そして上達したら、院内対抗テニストーナメントを開催し、みんなで、いい汗を流したいです。院長、前向きに検討して下さいネ。

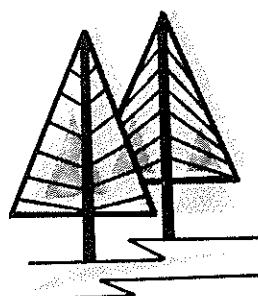
と言う事で、院長の好きなものを2つほどご紹介しましたが、やっぱり一番は、奥様でしょう。奥様を見る目は、猫を見る時より、テニスの事を考えている時より、一番輝いている!?と私達は思っています。

私達従業員は、院長よりも、奥様に相談にのっていただきたり、話を聞いていただけたりする事がが多いのです。この場を借りて、奥様、いつもありがとうございます。

これからも、さえずる小鳥の様な私達を、親鳥の様にあたたかい目で、見守って下さい。

よろしくお願いします!!

職員一同



隨想

心配な“いじめ”

零石町 高橋 孝

連日のように、“いじめ”による子供の自殺が報道されている。この報道を子供達はどのような目の高さで見ているのだろうか、又どれだけの知識をもって見ているのだろうか。この放送、この新聞、週刊誌を親と或はお母さんと一緒に見ているだろうか、勿論自分の命を絶つ程苦しんで居る子供のいる事実も解るが、しかし“いじめ”的報復は自殺をすることで加害者を世間に知らせ、仇を討つと考える子供はいないだろうか、子供は未だ「死」に対して恐怖感をもっていない。むしろ「死」を美化した考え方を持っていたらと思うといたたまれない気持ちになる。なにか怖い伝染病のようにさえ思えてならない。このように考えると、これだけ詳しく、しかも連日のように報道することが、子供たちに「自殺」と言う病原を撒き散らすことにはならないだろうか、情報を得ることも大切なことも十分承知しているが、なにか別の方法もあっても良いのではとも考える。「死んではならない!」「先生に話しなさい、親に話しなさい、友達に相談しなさい!」学校、家庭、地域社会が、この“いじめ”に一生懸命取り組んでいるように見えるが、しかし犠牲者は後をたたない。

戦後50年と言うが、50年前を考えてみることも必要だ。以前にも医報にも投稿したが、私は戦時教育を肯定しないが、今の校内暴力、不登校、いじめ等、昔も有ったとしても、このくらい問題にもならず子供が自分で、あるいは友達と手を取り合って意図も簡単に解決しただろう。このように考えると、今あつて昔なかった事柄が子供の心を蝕んでいると考えることが妥当だろう。今「逆算人生」と言う言葉もある、医師（そんなに楽でも無いし、金も溜まらないし、社会的に地位が高いとも思わないが入っている）弁護士、国家公務員、一流企業に就職すると、お金が入り、社会的地位が高く、安心して一生を送れる。そのためには、胎児の時代から音楽を聞かせ胎教を、幼児期から、家庭教師をつけ、塾に通わせ一流の中學、高校進学と子供の人権より、親権にウエイトをおき、「子供は外で伸び伸びと遊ばせてペチャクチャ……」言いながら、子供の人生を決める所謂「逆算人生」が堂々とまかり通っている。人権の言葉が出たので、叱られるかも知れないが、早朝のラジオに、男女平等より、女の人が強くなり、今まで子供は「我慢する」ことを母親か

ら自然に学んだが、今の時代はそれが出来ず、子供に「我慢をする、耐える」等の教育が出来ていないとの放送があった。

日の丸の小旗を振りながら、夫を戦地に送り、銃後を守り、姑に仕え、じっと耐えるとまでは言わないが、タバコを銜え、夫と何でも対等に話をして、経済的にも平等な環境にある今の女性、母から子供が「我慢する心、耐える心」を学び取ることは出来ないとのことであろう。テレビの番組を見ても、映画館には「18歳以下の方の入場お断り」とあってもテレビにはそれがない。親と同席しないで子供だけでこの番組を観て、大丈夫かと心配になることしばしばである。親が同席し、「これが悪い」「この様なことは絶対してはならない」と教えながら観るには親があまりにも忙し過ぎる。僕の家は大貧乏の農家だったのでテーブル（飯台と呼んだが）に正座をして、「マンマ食うドギア、マンマのコドダケ考へでケ！」と父の口癖で、子供の声はお代わりする「マンマ」「オヅゲ」以外の声はださず、祖父母、父、母の話す声に注意して耳を傾けた。田舎とて、話題も豊富ではなかったと思うが、その中には、子供一人一人に今日一日の生活の様子を尋ねたり、学校での出来事を尋ねたり、静かに親の話を聞き、問われると自分の考えを言い、その中から世の中の色々のルールを学んだように思う。今は忙しすぎる、一緒にご飯を食べたとしても、子も親も知らなければならぬ事柄が多く、その中にテレビでも仲間入りしようものなら、親と子供の目と耳は花火の枝垂れ柳の様にバラバラの方向に別れる。

学校の先生も忙しい、重要教科の行事には忙しくても参加するが、僕は職業柄か健康教育（心の教育も含め）には一般的の先生は中々腰を上げないように思えてならない。

“いじめ”も初めは保健室登校症候群を通ってくるのではなかろうか、昔の先生はその学区に居住し色々の相談（親にも子にも）にのり、保健室の役目を果していた。“いじめ”的問題のなかには複雑な問題がからみ、いじめる側、いじめられる側それぞれの一例、一例に一つとして共通した事柄はないようと思える。先日「5等になりたい」と云うアニメを観る機会があったが、いじめる側に「我慢、耐える」心が無く、いじめられる側にその心があった。何れ机の上の思索で解決すると考えたら大きな過ちを犯すのでは……。

新入会員紹介

①氏名：小野靖之先生（国保西根病院）
 ②年令：29才
 ③出身地：福島県いわき市
 ④出身校：岩手医科大学
 ⑤診療科目：内科
 ⑥勤務の時期：平成7年12月より国保西根病院へ
 ⑦趣味：スポーツ（野球、バレー、ボーリング）
 ⑧ひとこと：御指導の程、よろしくお願ひ致します。

①氏名：折祖昭彦先生（渋民中央病院）
 ②年令：53才
 ③出身地：岩手県下閉伊郡新里村和井内
 ④出身校：岩手医科大学
 ⑤診療科目：消化器
 ⑥勤務の時期：平成6年7月26日より渋民中央病院へ
 ⑦趣味：読書

岩手郡医師会理事会

日時：平成8年2月1日（木）午後6時30分より
 場所：盛岡市大通「梓」
 出席者：会長、高橋孝、八角、西島、岡本、
 根本、高橋克、佐藤、嶋、佐々木、
 上原、篠村、及川、坂井

議題：

1. 郡医師会総会（H.8.3.2）について
2. その他

岩手郡医師会理事会

日時：平成8年2月21日（水）午後6時30分より
 場所：盛岡市駅前 ホテルメトロボリタン盛岡
 出席者：会長、西島、高橋孝、八角、坂井、
 上原、及川、嶋、篠村、佐々木

議題：

- 郡医師会予算案について

岩手郡医師会理事会

日時：平成8年3月23日（土）午後5時～
 場所：盛岡市大通り「梓」
 出席者：会長、高橋孝、八角、佐藤、岡本、

及川、篠村、佐々木、坂井、上原、
 嶋、西島

議題：

1. 岩手県医師会各種委員会委員について
2. その他

岩手県医師会各種委員会委員

岩手県医師会広報委員会	信彦介夫郎司雅彰之人毅夫
岩手県医師会健康教育委員会	秀牧久充郁正達康忠博忠
岩手県医師会医事紛争対策委員会	内橋木原藤角村本島川井本
岩手県医師会保険問題協議会	嶋高佐上佐八篠岡西及坂根
岩手県医師会学校医部会	
岩手県医師会勤務医部会	
岩手県医師会産業医部会	
岩手県医師会労災部会	
岩手県医師会生涯教育委員会	
岩手県医師会診療所部会	
岩手県医師会地域医療部会	
岩手県医師会福祉部会	
岩手県医師会医師連盟	

集 編

後 記

●例年になく山々は積雪が多く、除雪に苦労するだろうといわれています。また、「三寒四温」「暑さ寒さも彼岸まで」などといわれている今日この頃ですが、徐々に野に山に新芽が出はじめる時節となって参りました。

●3月2日には郡医師会総会が、ホテルメトロボリタン盛岡において行われ、多数の参加者があり、喜ばしい限りと思われた。

担当理事より、1年間の活動報告と共にこれからの方向性をそれぞれ述べた。

次年度予算もそれぞれ承認され、任期満了による役員の改選においても、各地区より選出された理事の互選により、再度高橋牧之介先生が郡医師会長に選ばれた。これからの方針性のカジ取りとして期待したいものである。また会長は、2月に行われた県医師会の副会長にも再選され、再び御多忙となることと思う。御身体に留意されますますの御活躍を願うものである。

●平成7年度県民健康講座は、岩手町において平成8年1月24日、1月31日、2月7日の3回にわたり行われ、各回とも100名を超える参加者で、内容については今回は「痛み」にこだわって、胸部、腹部、

腰部とそれぞの専門領域の担当講師により、わかり易いスライドや黒板を使っての解説であったという。

アンケートを見ても「よく理解できた」「まあまあだった」を合わせても90%以上であったことをみて大変有意義であったと思います。これから問題として老齢化に向けて「心の健康について」が求められていることも指摘された。

地区担当講師の先生方どうも御苦労様でした。

●零石町医療団（医師・歯科医師を含む）は例年12月に他の団体との共催としてチャリティーショーを町内で開催しているという。今回その模様を報告してくれた。大変な盛況であったとのこと、揃いの衣装で頑張っている姿が報告から感じられます。

●「おらほの先生」には、滝沢村葉の木沢に開業している遠藤医院を御紹介します。

冒頭の看板について、早速滝沢村巣子地内の国道4号線沿いの写真を撮ってきました。文章と見比べて下さい。

●零石町高橋先生よりいただいた世相を見る目をよく味わってみて下さい。

(M. S記)